

医学教育分野別評価 弘前大学医学部医学科 年次報告書 2026 年度

医学教育分野別評価の受審 2021（令和 3）年度

受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.32

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.36

※本年次報告書においては、評価基準の転記を省略している。

本年次報告書における教育活動等の対象期間 2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日

はじめに

本学医学部医学科は、2021 年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2022 年 6 月 1 日より 7 年間の認定期間が開始した。医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 36 を踏まえ、2026 年度の年次報告書を提出する。

1. 使命と学修成果

領域 1.1～1.4 における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、使命について学内関係者への周知を行った。今後は、使命や学修目標策定の際に、学生や教員などのより多くの関係者の意見を収集する体制を構築し、見直しを図ることが課題である。

1.1 使命

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 使命の中の「医学部のミッションの再定義」には地域医療への貢献に関する詳細な内容が記載されている。

改善のための助言

- ・ 医学部の使命として、「医学科の理念・目的」、「医学科の教育目的」、「ディプロマ・ポリシー」、「医学部のミッションの再定義」が挙げられており、これらの関係性を明確にして、教員や学生等に分かりやすく示すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学教育の使命として「医学科の理念・目的」、「医学科の教育目的」、「医学科の教育目標（カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）」等をホームページと履修案内に掲載し、教職員・学生に常時周知している。また社会の保健・健康維持に対する要請と医療制度からの要請として「医学部のミッションの再定義」を位置づけている。医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）に則り改訂した卒業時コンピテンス・卒業時コンピテンシーは、ホームページ・履修案内に掲載するとともに、新年度ガイダンス等で周知を図っている。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 101 弘前大学医学部医学科カリキュラムマップ【履修案内】
- ・ 資料 102 弘前大学医学部医学科理念・目的等【履修案内】
- ・ 資料 103 弘前大学医学部医学科理念・目的【HP】
- ・ 資料 104 弘前大学医学部医学科の使命【履修案内】
- ・ 資料 105 弘前大学医学部医学科入学案内【HP】
- ・ 資料 106 弘前大学医学部医学科卒業時コンピテンシー【令和元（2019）～令和 5（2023）年度入学者】【履修案内】
- ・ 資料 107 弘前大学医学部医学科卒業時コンピテンシー【令和 6（2024）年度以降入学者】【履修案内】

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 国際的健康、医療の観点について、より明確に使命に包含することが期待される。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

改訂された卒業時コンピテンス・卒業時コンピテンシーには、国際的視野に立った研究をより推進すべく、リサーチマインドを涵養し、英語論文を読み理解した上で討論できる内容が含まれている。

国際的健康・医療の観点を含めた「医学科の理念・目的」の改訂を行った。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 108 弘前大学医学部医学科カリキュラムマップ【令和 6（2024）年度以降入学者】
- ・ 資料 107 弘前大学医学部医学科卒業時コンピテンシー【令和 6（2024）年度以降入学者】【履修案内】
- ・ 資料 101 弘前大学医学部医学科カリキュラムマップ【履修案内】
- ・ 資料 102 弘前大学医学部医学科理念・目的等【履修案内】
- ・ 資料 103 弘前大学医学部医学科理念・目的【HP】

1.2 大学の自律性および教育・研究の自由

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ カリキュラムの作成に関わる委員会として、カリキュラム委員会、カリキュラム委員会実

務者会議、カリキュラム検討部門があり、それぞれの役割分担と自律性について整理して教育施策を構築し、実施すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

カリキュラム委員会、学務委員会、プログラム評価委員会は、教職員と学生を含む委員により構成され、学生からの教育に関する要望も反映されている。2026 年度からのカリキュラムの大幅な改訂に向けて、医学教育センター内に設置された教育カリキュラム検討 WG およびクリニカル・クラークシップ WG において、カリキュラムの改善の具体的な対応を行っている。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 109 医学部医学科教学 PDCA サイクル図
- ・ 資料 110 医学教育センター組織図
- ・ 資料 111 弘前大学医学部医学科カリキュラム委員会に関する申合せ
- ・ 資料 112 弘前大学医学部医学科カリキュラム委員会委員名簿
- ・ 資料 113 弘前大学医学部医学科学務委員会申合せ
- ・ 資料 114 弘前大学医学部医学科学務委員会委員名簿
- ・ 資料 115 弘前大学医学部医学科プログラム評価委員会に関する申合せ
- ・ 資料 116 弘前大学医学部医学科プログラム評価委員会委員名簿
- ・ 資料 117 令和 7 年度 学務委員会・プログラム評価委員会・カリキュラム委員会及び各実務者会議開催実績
- ・ 資料 118 弘前大学医学部医学科教育カリキュラム検討 WG 委員名簿
- ・ 資料 119 教育カリキュラム検討 WG 議事要旨
- ・ 資料 120 弘前大学医学部医学科クリニカル・クラークシップ WG 委員名簿
- ・ 資料 121 クリニカル・クラークシップ WG（紙上）の開催について（通知）

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 現行カリキュラムの課題に関して、より多くの教員が適切に提案できるようにすることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

「教育教授等」の称号付与制度により、教育業務を中心的に行う教員などのさらなる意欲向上と資質向上を継続的に行い、教育の充実を図っている。教育教授・教育准教授・教育講師を含む委員で構成される臨床能力開発委員会では、臨床実習前教育の改善点、臨床実習で強化する教育内容について知識と情報を共有し、臨床実習の充実に向けた対応などを継続的に行っている。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 122 弘前大学医学部医学科教育教授等の称号付与に関する要項
- ・ 資料 123 弘前大学医学部医学科教育教授等称号付与者名簿
- ・ 資料 124 弘前大学医学部医学科臨床能力開発委員会に関する申合せ
- ・ 資料 125 弘前大学医学部医学科臨床能力開発委員会委員名簿
- ・ 資料 126 臨床能力開発委員会次第
- ・ 資料 127 臨床実習入門シラバス

1.3 学修成果

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 学修成果として卒業時コンピテンス（10 領域）および卒業時コンピテンシー（66 項目）を定めている。

改善のための助言

- ・ 学修成果について学生および教員に十分周知し、理解を促すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）に則った卒業時コンピテンス（10 領域）および卒業時コンピテンシー（59 項目）を定め、ホームページと履修案内に掲載することで、アウトカムベースの学修成果を周知している。医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）に則した「カリキュラムマップ」および「各学年のアウトカム」を定めている。新年度オリエンテーションでは全学年で学年ごとのアウトカムを提示している。連携教育施設における FD を開催し、学内外の教員に、診療参加型臨床実習によるアウトカムベースの学修成果についての理解を促した。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 107 弘前大学医学部医学科卒業時コンピテンシー【令和 6（2024）年度以降入学者】【履修案内】
- ・ 資料 108 弘前大学医学部医学科カリキュラムマップ【令和 6（2024）年度以降入学者】
- ・ 資料 128 （1～4 年・講義）コアカリ選択表 医学教育モデル・コア・カリキュラム（R4 年度改訂版）
- ・ 資料 129 （5～6 年・臨床実習）コアカリ選択表 医学教育モデル・コア・カリキュラム（R4 年度改訂版）
- ・ 資料 130 弘前大学医学部医学科各学年のアウトカム【履修案内】
- ・ 資料 131 令和 7 年度弘前大学医学部連携教育施設における FD の開催について
- ・ 資料 132 令和 7 年度弘前大学医学部連携教育施設における FD チラシ

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学研究に関する学修成果に対応するために、医学教育センター内に臨床研究医養成部門を設置した。さらに、メディカルスチューデント・アシスタント（MSA）を活用して医学研究に関する学修成果の向上を図るため、MSA 活動中間発表会およびリサーチドクター養成キャンプを開催した。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 110 医学教育センター組織図
- ・ 資料 133 弘前大学医学部医学教育センター規程
- ・ 資料 134 国立大学法人弘前大学におけるメディカルスチューデント・アシスタントの雇用に関する要項
- ・ 資料 135 令和 7 年度 MSA 活動中間発表会チラシ
- ・ 資料 136 令和 7 年度リサーチドクター養成キャンプ開催要領

1.4 使命と成果策定への参画

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 使命の策定に学生とより多くの教職員が参画すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

カリキュラム委員会、学務委員会、プログラム評価委員会には、学生代表者、学務担当職員に加えて、医学科以外の教員や有識者等が参画し、アウトカムベースの学修成果の策定を行っている。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 111 弘前大学医学部医学科カリキュラム委員会に関する申合せ
- ・ 資料 112 弘前大学医学部医学科カリキュラム委員会委員名簿
- ・ 資料 137 カリキュラム委員会議事要旨
- ・ 資料 113 弘前大学医学部医学科学務委員会申合せ
- ・ 資料 114 弘前大学医学部医学科学務委員会委員名簿
- ・ 資料 138 学務委員会議事要旨

- ・ 資料 115 弘前大学医学部医学科プログラム評価委員会に関する申合せ
- ・ 資料 116 弘前大学医学部医学科プログラム評価委員会委員名簿
- ・ 資料 139 プログラム評価委員会議事要旨
- ・ 資料 117 令和 7 年度 学務委員会・プログラム評価委員会・カリキュラム委員会及び各実務者会議開催実績

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 使命と目標とする学修成果の策定には、他医療職種、地域医療関係者や患者代表等、より広い範囲の教育の関係者からの意見を聴取することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

地域医療に関する学部教育を展開する地域基盤型医療人材育成センターでは、教育カリキュラム専門部会および事業評価専門部会を開催し、外部から行政専門職と他学専門家が参画して、学修成果を策定している。また、秋田大学との合同 FD において、教育カリキュラム改革等に関する意見交換を行っている。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 140 弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議の専門部会設置に関する申合せ
- ・ 資料 141 弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議教育カリキュラム専門部会委員名簿
- ・ 資料 142 弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議教育カリキュラム専門部会議事要旨
- ・ 資料 143 弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議事業評価専門部会委員名簿
- ・ 資料 144 弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議事業評価専門部会議事要旨
- ・ 資料 145 2025 年度医学教育センター主催 FD ポスター（1 月 14 日開催）

2. 教育プログラム

領域 2.2～2.8 における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、カリキュラム委員会の活動を実質化し、臨床実習前カリキュラムの水平的統合・垂直的統合を促進するための検討を 2022 年度に開始した。今後は、臨床実習において重要な診療科での実習期間の確保および経験すべき主要症候・疾患を学修できる環境を整備し、医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）への対応を継続的に図ることが課題である。

2.1 プログラムの構成

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 臨床推論能力を涵養するために 4 年次後期に PBL を 3 か月実施している。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

豊かな人間性と高度の医学知識に富み、求められる社会的役割を的確に果たすことができ、広い視野と柔軟な思考力を持つ医師・医学研究者を養成できるカリキュラムを設定している。学生の学修負担および教員の教育負担の効率化を図るために、全教科の教員に水平・垂直統合についてのアンケートを実施した。その中で、講義内容の重複の存在、講義期間の長期化、また水平統合の問題点の事例などが挙げられた。水平・垂直統合以外についてのアンケートでも学生に自発的に学修してもらう方法なども議論されている。

2026 年度入学者より、いつそう水平的統合・垂直的統合を目指したカリキュラムに移行し、早期からの見学型の臨床実習（シャドーイング）が組み入れられる。

他大学の医学教育システムやカリキュラムを弘前大学に活用するため、サイトビジットを実施している。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 101 弘前大学医学部医学科カリキュラムマップ【履修案内】
- ・ 資料 102 弘前大学医学部医学科理念・目的等【履修案内】
- ・ 資料 108 弘前大学医学部医学科カリキュラムマップ【令和 6（2024）年度以降入学者】
- ・ 資料 201 医学部医学科カリキュラムたたき台【令和 8（2026）年度 1～4 年生】
- ・ 資料 202 水平・垂直統合についての意見
- ・ 資料 203 水平・垂直統合以外の教育カリキュラム再編成に関する意見
- ・ 資料 204 昭和医科大学サイトビジット 2025.6.25（水）

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2～4 年次のカリキュラムに関しても準備段階ではあるが、講義のブロック化（集中講義化）、見学型の臨床実習の実施が盛り込まれている。昨年度整備されたシミュレーター実習室に加

え、メディカルスタッフ研修室の種々のシミュレーターも学生が使用可能で、学修機会の多角化が図られている。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 201 医学部医学科カリキュラムたたき台【令和 8（2026）年度 1～4 年生】
- ・ 資料 205 臨床実習 I（5 年次）におけるシミュレーター実習
- ・ 資料 206 【令和 7 年度】メディカルスタッフ研修室利用実績

2.2 科学的方法

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ カリキュラムを通して医学研究や臨床の実践に必要な、批判的・分析的な思考に基づく科学的手法の原理を体系的に教育すべきである。
- ・ 臨床実習の現場で EBM の教育を確実に行うべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

本学では、医学研究および臨床実践に必要な批判的・分析的思考に基づく科学的手法を、学年進行に応じて体系的に教育している。2 年次の医用統計学においては、医学研究データの解析および検定手法を習得する。3 年次の社会医学および社会医学実習では、文献検索、臨床試験の理解、論文の批判的吟味、EBM および統計解析を学ぶ。さらに研究室研修では、学生が主体的に研究に取り組み、成果を英語で発表することで、科学的手法の実践的理解を深める。4 年次の PBL では、シナリオの解決に必要な文献を自ら検索し、科学的根拠に基づいた討論を行うことで、EBM の基礎的能力を養成している。一方、臨床実習入門では PICO（PECO）に基づく臨床疑問の定式化、文献検索、および診療ガイドラインの活用について教育し、EBM の実践力を養成している。加えて、医学英語教育を 1 年次から 4 年次まで継続的に実施し、論文読解および発表能力の向上を図っている。さらに、医学科学生をメディカルスチューデント・アシスタント（MSA）として採用することにより、研究参画の機会を提供している。

臨床実習における EBM 教育については、2026 年度からの新カリキュラムにおいて、2 年次の臨床実習 II より、臨床現場での EBM の実践的教育を段階的に実施する予定である。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 207 医用統計学シラバス
- ・ 資料 208 社会医学シラバス
- ・ 資料 209 社会医学実習シラバス
- ・ 資料 210 特別教育科目（研究室研修）シラバス
- ・ 資料 211 医学英語 I（クラス A）シラバス
- ・ 資料 212 医学英語 I（クラス B）シラバス

- ・ 資料 213 医学英語Ⅱシラバス
- ・ 資料 214 医学英語Ⅲシラバス
- ・ 資料 215 医学英語Ⅳシラバス
- ・ 資料 216 PBL シラバス
- ・ 資料 127 臨床実習入門シラバス
- ・ 資料 217 令和 7 年度 弘前大学メディカルチューデント・アシスタント 採用者一覧

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 被ばく医療総合研究所の教員を中心に放射性物質の物理的性質から人体への影響まで、体系的な教育をしていることは、特色ある取り組みとして評価できる。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

本学の防災や被ばく医療教育を強化するために、医学科 1 年次学生全員が防災科学について学び、防災士資格の取得を推奨する科目を構築した。2 年次においては、被ばく医療学として、放射線・放射性物質の人体への影響のメカニズムを教育している。また、臨床実習においては、高度救命救急センターにおいて、災害医療の基本的知識を習得するコース（救命・被ばく医療対応コース）を開講し、コースを修了した医学科の臨床実習生に対し、医学部長から受講証を交付している。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 218 環境と生活－弘前大学災害対応マネージャーその 1 防災科学－（副専攻「放射線総合科学」科目）シラバス
- ・ 資料 219 医学・医療の世界－弘前大学災害対応マネージャーその 2 災害医学－（副専攻「放射線総合科学」科目）シラバス
- ・ 資料 220 持続可能な開発目標 SDG s－弘前大学災害対応マネージャーその 3 原子力災害の理解－（副専攻「放射線総合科学」科目）シラバス
- ・ 資料 221 弘前大学医学部医学科救命・被ばく医療対応コース受講証交付に関する要項

2.3 基礎医学

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

基礎医学および臨床医学のカリキュラムの水平的統合・垂直的統合を促進するための検討を具体化し、2026 年度入学者から 1 年次の後期のカリキュラムにおいて、基礎医学の講義が開始される内容に改訂された。一例として、従来の解剖学、組織学中心の構成を見直し、正常構造と病態理解を関連付けて学修できる統合型カリキュラムを配置した。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 201 医学部医学科カリキュラムたたき台【令和 8（2026）年度 1～4 年生】
- ・ 資料 222 正常と病理 I シラバス（2026 年度）

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されることを明確にした上で、組織的に教育方針を決定しカリキュラムに反映させることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学教育センター運営会議のほか、カリキュラム委員会、教育カリキュラム検討 WG において議論を重ね、大学全体として 1～6 年次を俯瞰したカリキュラムの改訂に取り組んでいる。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 202 水平・垂直統合についての意見
- ・ 資料 203 水平・垂直統合以外の教育カリキュラム再編成に関する意見
- ・ 資料 117 令和 7 年度 学務委員会・プログラム評価委員会・カリキュラム委員会及び各実務者会議開催実績
- ・ 資料 119 教育カリキュラム検討 WG 議事要旨

2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 行動科学、医療倫理学、および医療法学について、さまざまな科目にわたっている教育内容を整理・統合し、統轄責任者を定めて管理する体制を構築して、順次性を明確に規定した上で実践すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

1 年次「医の原則」において、救急医療、災害医療の現場における「医の原則」をはじめ、医療倫理、研究倫理、医療法学、情報システムと情報管理の基礎の授業を導入した。

1 年次「臨床医学入門」において、臨床の場での医療倫理にかかわる内容、とくに自分、他人、社会に対するプロフェッショナリズムを身につけられるよう授業を実施した。

2 年次「神経科学」において、臨床神経学に直結する行動科学の基礎の授業を実施した。

2 年次「社会医学」において、医療関連法規の基礎、EBM、予防医学の概念や方法論を学ぶ授業を実施した。

3 年次「外科学概論」において、プロフェッショナリズムの観点から医療倫理の内容を組み込んでいる。

3 年次「神経精神医学Ⅰ」および「神経精神医学Ⅱ」において、精神保健福祉法の中の入院形態および処遇に関する事項、および精神保健福祉法に関する社会的資源の概要、災害精神医学、薬物依存などについて授業を実施した。

4 年次「法医学」において、法律のかかわる医療・医学の問題に関する網羅的な内容、異状死・異状死体の取り扱い方法や、死亡診断書・死体検案書の書き方など卒後に有益な内容を組み込んでいる。

4 年次「医療安全学」において、医療安全の観点から医療倫理、医療法学の内容を組み込んでいる。また、法制度と医師のプロフェッショナリズムについて弁護士を招いて授業を行っている。さらに臨床現場における危険や潜在的リスクを特定、評価、報告することでリスクマネジメントの原則を適用する方法を学ぶ講義を実施した。

4 年次「症候学」において、日常臨床で高頻度に遭遇する症候・病態に対応できる能力や臨床推論を身につける授業を実施した。

4 年次「臨床実習入門」に、医療倫理学、行動科学の応用的内容および医療法学を履修するプログラムをシラバスに明示し、授業を実施した。

以上のように、医療倫理学、行動科学、医療法学の順次性をシラバスに明示して、包括的に、行動科学・医療倫理学・医療法学について教育する体制を整備した。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 223 医の原則シラバス
- ・ 資料 224 臨床医学入門シラバス
- ・ 資料 225 神経科学シラバス
- ・ 資料 208 社会医学シラバス
- ・ 資料 226 外科学概論シラバス
- ・ 資料 227 神経精神医学Ⅰシラバス
- ・ 資料 228 神経精神医学Ⅱシラバス
- ・ 資料 229 法医学シラバス
- ・ 資料 230 医療安全学シラバス
- ・ 資料 231 症候学シラバス
- ・ 資料 127 臨床実習入門シラバス

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 行動科学、社会医学、医療倫理学、医療法学に関し、社会情勢や時代の変化に対応してカリキュラムを修正する体制を構築することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

行動科学、社会医学、医療倫理学、医療法学に関する授業は行われている。とくに医療倫理学、医療法学に関しては、クリニカル・クラークシップ前に医師としてのプロフェッショナリズムを学ぶ機会を拡充するなど、医学教育センター等において、学年の各段階で学べるように検討を継続している。一方で、アンプロフェッショナルな行動を認める学生も皆無ではないため、対応に対する取り決めを作成し、調査・報告を行った上で、指導・再教育・改善状況の観察を行っている。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 223 医の原則シラバス
- ・ 資料 224 臨床医学入門シラバス
- ・ 資料 225 神経科学シラバス
- ・ 資料 208 社会医学シラバス
- ・ 資料 226 外科学概論シラバス
- ・ 資料 227 神経精神医学Ⅰシラバス
- ・ 資料 228 神経精神医学Ⅱシラバス
- ・ 資料 229 法医学シラバス
- ・ 資料 230 医療安全学シラバス
- ・ 資料 231 症候学シラバス
- ・ 資料 127 臨床実習入門シラバス
- ・ 資料 232 医学教育センター運営会議議事要旨
- ・ 資料 119 教育カリキュラム検討WG議事要旨
- ・ 資料 233 弘前大学医学部医学科アンプロフェッショナルな学生の定義と対応に係る取扱要領

2.5 臨床医学と技能

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 「岩木健康増進プロジェクト」に学生が参加し、健康増進や予防医学、地域保健に関し体験する機会を早期から組み込んでいることは評価できる。

改善のための助言

- ・ 診療参加型臨床実習をより充実させ、臨床技能・医療専門職としての技能を早期から計画的に十分な期間をとって修得できるようにすべきである。
- ・ 学生が経験すべき主要な症候・疾患を定義し、臨床実習期間に十分修得できるようにすべきである。
- ・ 重要な診療科で十分に学修できるよう実習期間を確保すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2026 年度入学生から新カリキュラムを導入し、1 年次からの早期見学型臨床実習を開始することとした。

早期見学型臨床実習に対応できるよう、1 年次に医療行動科学Ⅰ、臨床医学入門を導入することとした。

新カリキュラムにおいて 2 年次、3 年次にも見学型臨床実習である臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲを設定した。

診療参加型臨床実習をより充実させるため、学外の臨床研修病院を対象とした FD を開催し、診療参加型臨床実習等に関して情報共有するとともに、実習の質的改善を図った。

診療参加型臨床実習ならびに OSCE における手技の向上を目的とした、シミュレーター実習室を整備し、運用を開始した。

臨床参加型臨床実習充実において、先進的な取り組みを行っている他大学へのサイトビジットを複数回行い、本学の臨床実習改善の参考とした。

米国における医学教育を学ぶとともにその実際を体験するため、海外講師を招いた FD を開催した。

診療参加型臨床実習の評価はもとより、その後の初期臨床研修の評価へとシームレスに継続できる CC EPOC の導入を検討している。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 234 令和 8 年度 医学部医学科 授業時間割〔1 年次〕
- ・ 資料 235 臨床実習Ⅰシラバス（2026 年度）
- ・ 資料 236 医療行動科学Ⅰシラバス（2026 年度）
- ・ 資料 237 臨床医学入門シラバス（2026 年度）
- ・ 資料 201 医学部医学科カリキュラムたたき台【令和 8（2026）年度 1～4 年生】
- ・ 資料 238 シミュレーター実習室利用の手引き
- ・ 資料 239 シミュレーター実習室予約サイト【HP】
- ・ 資料 240 令和 7 年度弘前大学連携教育施設における FD 配布資料（弘前大学における医学教育の現状について）
- ・ 資料 241 令和 7 年度弘前大学連携教育施設における FD 配布資料（診療参加型臨床実習の現状について）
- ・ 資料 132 令和 7 年度弘前大学医学部連携教育施設における FD チラシ
- ・ 資料 242 秋田大学大学院医学系研究科 医学教育学講座への訪問の報告
- ・ 資料 204 昭和医科大学サイトビジット 2025.6.25（水）
- ・ 資料 145 2025 年度医学教育センター主催 FD ポスター（9 月 24 日開催）

- ・ 資料 243 ハワイ大学・町淳二先生によるカンファレンス・講演会を開催【HP】
- ・ 資料 232 医学教育センター運営会議議事要旨

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 臨床医学教育のカリキュラムを社会の変化に対応して、組織的・体系的に調整や修正することが望まれる。
- ・ 2 年次学生、3 年次学生の教育段階に合わせて、患者診療への参画を深めることが望まれる。
- ・ 教育プログラムの進行に合わせ、臨床技能教育を適切な時期に行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2026 年度入学生より新カリキュラムを導入し、水平的統合、垂直的統合を行った。

医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）に対応するため、医学科の理念・目的、卒業時コンピテンス・コンピテンシーおよび学年毎のアウトカムの改訂作業を行っている。

新カリキュラムに対応したカリキュラムマップの見直しを行っている。

2026 年度入学生からは各講義の個別試験を廃止し、統一試験にて包括的評価を行う予定とした。

6 年次臨床実習において、学外実習施設における長期滞在型臨床実習（LIC）の導入を検討している。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 103 弘前大学医学部医学科理念・目的【HP】
- ・ 資料 107 弘前大学医学部医学科卒業時コンピテンシー【令和 6（2024）年度以降入学者】【履修案内】
- ・ 資料 108 弘前大学医学部医学科カリキュラムマップ【令和 6（2024）年度以降入学者】
- ・ 資料 128 （1～4 年・講義）コアカリ選択表 医学教育モデル・コア・カリキュラム（R4 年度改訂版）
- ・ 資料 129 （5～6 年・臨床実習）コアカリ選択表 医学教育モデル・コア・カリキュラム（R4 年度改訂版）
- ・ 資料 119 教育カリキュラム検討 WG 議事要旨
- ・ 資料 201 医学部医学科カリキュラムたたき台【令和 8（2026）年度 1～4 年生】
- ・ 資料 240 令和 7 年度弘前大学連携教育施設における FD 配布資料（弘前大学における医学教育の現状について）
- ・ 資料 241 令和 7 年度弘前大学連携教育施設における FD 配布資料（診療参加型臨床実習の現状について）

- ・ 資料 132 令和 7 年度弘前大学医学部連携教育施設における FD チラシ

2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 診療参加型臨床実習前に基礎と臨床のつながりを意識し、臨床推論能力・問題解決能力を涵養するカリキュラムを十分な時間をとって配置している。

改善のための助言

- ・ 教育範囲、教育内容、教育科目の実施順序を明示したカリキュラムマップを作成し、教員と学生が教育プログラム全体を十分に理解できるようにすべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

カリキュラムマップを、医学部医学科の履修案内およびホームページにおいて提示している。学生および教員のカリキュラムマップの理解、受講および担当教科のプログラム上での意義の理解を深める。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 101 弘前大学医学部医学科カリキュラムマップ【履修案内】
- ・ 資料 102 弘前大学医学部医学科理念・目的等【履修案内】
- ・ 資料 103 弘前大学医学部医学科理念・目的【HP】

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 関連する科目の水平的統合・垂直的統合を推進し、より効果的な教育体系を構築することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

水平的統合・垂直的統合、講義時間の短縮について、学生と教員、医学教育センター、教育カリキュラム検討 WG などで検討し、2025 年度から 4 年次の講義コマ数を適正化した。水平的統合・垂直的統合の実施に向けて、各科目の代表教員のアンケート調査結果を参考に、2026 年度入学生より水平的統合・垂直的統合を推進するためのカリキュラムの運用を予定している。また、以前より早期体験実習ができるプログラムはあったが、それに加えて 1 年次よりシャドーイングによる見学型臨床実習を予定した。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 244 2025 年度 授業日程（3・4 年）
- ・ 資料 201 医学部医学科カリキュラムたたき台【令和 8（2026）年度 1～4 年生】
- ・ 資料 202 水平・垂直統合についての意見
- ・ 資料 203 水平・垂直統合以外の教育カリキュラム再編成に関する意見

2.7 教育プログラム管理

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 組織の中でカリキュラム委員会の位置づけを明確にし、規程を定めて責任と権限を持ってカリキュラムの立案と実施に対応すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学教育センター内に設置された「教育カリキュラム検討 WG」を定期的に行い、カリキュラム委員会と連携しながら 2026 年度入学生からの新カリキュラムを立案した。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 110 医学教育センター組織図
- ・ 資料 118 弘前大学医学部医学科教育カリキュラム検討 WG 委員名簿
- ・ 資料 119 教育カリキュラム検討 WG 議事要旨
- ・ 資料 201 医学部医学科カリキュラムたたき台【令和 8（2026）年度 1～4 年生】

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 教育カリキュラムの改善と実施について、カリキュラム委員会の活動を実質化することが望まれる。
- ・ カリキュラム委員会に広い範囲の教育の関係者の代表を含み、その意見をカリキュラム改善に反映させることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育カリキュラム検討 WG ならびにカリキュラム委員会（学生代表を含む）を定期開催し、活動の実質化を行っている。また、カリキュラム委員会および学務委員会に医学教育の専門家が参加している。

現在の教育カリキュラムに関するアンケート調査を実施し、広く意見を求めた。アンケート

結果について、医学教育センター運営会議において検討し、カリキュラムへの反映を図った。学生からの評価が著しく低かった授業科目について、学務委員会を通じて改善を求めた。

2022 年度に新設された地域基盤型医療人材育成センターの運営会議を開催し、2025 年度は本学教員、他大学教員および自治体職員から、本学の教育について広く意見を求めた。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 119 教育カリキュラム検討 WG 議事要旨
- ・ 資料 137 カリキュラム委員会議事要旨
- ・ 資料 112 弘前大学医学部医学科カリキュラム委員会委員名簿
- ・ 資料 114 弘前大学医学部医科学務委員会委員名簿
- ・ 資料 128 （1～4 年・講義）コアカリ選択表 医学教育モデル・コア・カリキュラム（R4 年度改訂版）
- ・ 資料 129 （5～6 年・臨床実習）コアカリ選択表 医学教育モデル・コア・カリキュラム（R4 年度改訂版）
- ・ 資料 202 水平・垂直統合についての意見
- ・ 資料 203 水平・垂直統合以外の教育カリキュラム再編成に関する意見
- ・ 資料 245 「学生による教育評価（講義）」結果通知書を踏まえた授業改善について（依頼）
- ・ 資料 246 弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議議事要旨

2.8 臨床実践と医療制度の連携

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 卒前教育と卒後の教育・臨床実践とのスムーズな連携のために、カリキュラム委員会と総合臨床研修センターの組織としての役割をより明確にすべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学教育センター組織図に示すように、医学教育センターの構成員として総合臨床研修センター長が加わり、卒前・卒後のシームレスな教育による臨床実践へのスムーズな移行のために連携推進を行った。総合臨床研修センターは、初期研修部門、専門研修部門、MS 連携部門の 3 つの部門の副センター長を中心にそれぞれの教育活動を行った。専攻医、初期研修医、医学生、そのほかのメディカルスタッフ全員が利用できる、メディカルスタッフ研修室を予約システムも含めた整備を行い 2025 年 4 月から 2026 年 3 月までの利用者が 7,000 名を超えた。また、本院の初期研修医を対象とした研修医セミナーは、県内の研修病院からの参加者も対象に必修科目の中でもより特殊な専門的領域をテーマとして WEB と会場のハイブリッドで計 8 回開催した。指導医と研修医、医学生との交流の場として「レジデント・ドクター交流会」を開催し、

その中で 6 年次を対象に WEB アンケートから、学外の実習施設を含む全指導医から優秀指導医 3 名の選考を行い表彰した。新たに本年度から本院の初期研修医を対象に基本的臨床能力評価試験を実施し、研修評価の再確認を行った。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 110 医学教育センター組織図
- ・ 資料 247 令和 7 年度本委員会の報告事項・審議事項の一覧表について
- ・ 資料 206 【令和 7 年度】メディカルスタッフ研修室利用実績
- ・ 資料 248 令和 7 年度 研修医セミナー
- ・ 資料 249 レジデント・ドクターズ交流会開催のご案内

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 卒業生の働く環境や地域からの情報を体系的に確実に収集し、教育プログラムの改良につなげることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

青森県医師臨床研修対策協議会の一員として、対面の研修病院説明会、全国レジナビフェア、研修指導医ワークショップ、研修医ワークショップの開催運営に参加し、卒業生と各研修病院間の相互の進路情報共有の推進を図った。2024 年度から開始している、「青森県における臨床研修が高い評価を得るために」の検討委員会においては、引き続き病院連携の強化、指導体制の充実、研修環境の整備、医学生との情報交換の推進のための活動を行った。研修医の症例発表と交流の機会を増やすために、本年度から弘前医学会において研修医セッションと優秀発表賞を設置し 2026 年 1 月 30 日に開始、県内の各研修病院 6 名から発表があった。さらに 2026 年 5 月の研修病院説明会に先立ち症例検討会を実施する予定である。また、研修医 WS においては、屋根瓦式指導体制の確立のため「医学生の指導」をテーマに KJ 法によるグループワークを実施した。今後も県内の初期研修医・医学生の交流を推進し、シームレスな屋根瓦式指導連携の充実を図っていく予定である。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 250 令和 7 年度 青森県医師臨床研修対策協議会 事業実績
- ・ 資料 251 「青森県における臨床研修が高い評価を得るために」に関する検討委員会ワーキンググループ 1～4 の提言

3. 学生の評価

領域 3.1～3.2 における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、再試験に関す

る規程整備を実施し、また臨床実習での教育による評価やフィードバックを強化するための FD を積極的に開始した。今後は、学年ごとの学修成果の達成度をモニタリングする体制を構築することが課題である。

3.1 評価方法

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 再試験に関する規程を整備して、開示すべきである。
- ・ 学生の知識、技能および態度を確実に評価し、ポートフォリオ等を用いて学年ごとに学修成果の達成をモニタすべきである。
- ・ 様々な評価方法と形式をそれぞれの評価有用性に合わせて活用すべきである。
- ・ 評価方法および結果に利益相反が生じないように規程を整備すべきである。
- ・ 評価が外部の評価者によって精密に吟味されるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

再試験に関する規定は、2022 年度に「弘前大学医学部（医学科）専門教育科目試験申合せ」として整備し、全学年の履修案内に明示している。

学生の知識、技能および態度については、多様な評価方法を用いて総合的に評価している。知識は、定期試験、CBT、総合試験および国家試験トライアルにより評価しており、2026 年度新入生からは、各科目における形成的評価に加えて、総括的评价として統一試験を導入予定である。技能は、OSCE に加え、臨床実習における Mini-CEX や 360 度評価を拡充するとともに、医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）に基づく基本的臨床手技について、学生および診療科で共有し、学生の自己評価および指導者評価を実施予定である。態度は、授業・実習への出席状況、課題提出状況、グループ学修への参加状況およびアンプロフェッショナルな行動の有無等により評価している。臨床実習においては、診療科終了時の指導医評価表により、知識・技能・態度を総合的に評価している。今後は全診療科への Mini-CEX や 360 度評価等の多面的評価の拡大に向けた取り組みを進めていくとともに、全学生を対象としたポートフォリオを導入予定であり、各科目・実習における評価結果（試験成績、OSCE 評価、臨床実習評価等）を蓄積し、学修成果の達成状況を継続的にモニタリングする体制を整備予定である。

多様な評価方法と形式をそれぞれの特性および有用性に合わせて活用する取り組みとして、定期試験、CBT、総合試験および国家試験トライアルにより、知識を客観的かつ網羅的に評価している。OSCE では標準化された評価基準に基づき、臨床手技および診察能力を評価している。臨床実習においては、Mini-CEX や 360 度評価を用いた、診療場面における知識、技能、コミュニケーション能力および専門職としての行動などの多面的な評価を今後拡充していくとともに、レポートおよびポートフォリオを活用した、学修過程および自己省察を導入する予定である。これらを組み合わせることにより、単一の評価方法では把握困難な学修成果を総合的に評価していく。

評価の公平性および客観性を担保するため、本学では以下の取り組みを行っている。各科目

の評価方法および基準はシラバスに明示している。また、評価結果に対して不服申立制度を整備しており、学生は所定の手続きにより申立を行うことができる。不服申立は学務委員会において審査し、必要に応じて評価の見直しを行う。さらに、評価における利益相反を防止するため、評価者が当該学生と親族関係等の利害関係を有する場合には、当該評価に関与しない規定を制定した。

学生評価の妥当性および公正性を担保するため、評価方法および評価結果について、学内他学部、他大学の教員による点検を定期的実施する方針である。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 301 弘前大学医学部（医学科）専門教育科目試験申合せ
- ・ 資料 302 弘前大学医学部医学科クリニカルクラークシップ評価表（指導医用）
- ・ 資料 303 弘前大学医学部医学科クリニカルクラークシップ評価表（学生用）
- ・ 資料 304 授業科目の履修成績に対する異議申立てに関わるガイドライン
- ・ 資料 104 弘前大学医学部医学科の使命【履修案内】
- ・ 資料 130 弘前大学医学部医学科各学年のアウトカム【履修案内】
- ・ 資料 101 弘前大学医学部医学科カリキュラムマップ【履修案内】
- ・ 資料 102 弘前大学医学部医学科理念・目的等【履修案内】
- ・ 資料 305 【重要・通知】臨床実習前 OSCE（再試験）の直前指導について
- ・ 資料 306 総合教育演習Ⅲの実施について
- ・ 資料 307 【学務グループ】「総合試験（卒業試験）の結果」及び「医師国家試験 CBT トライアル試験の結果」について

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 評価方法の信頼性と妥当性を検証し、明示することが望まれる。
- ・ 臨床実習に、MiniCEX、患者や多職種による 360 度評価等の多様な評価法を導入することが望まれる。
- ・ 学生の評価について学外臨床実習施設の指導医等、外部評価者を活用することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

評価方法の信頼性および妥当性を確保するため、各科目における評価方法および基準をシラバスに明示している。筆記試験については、2026 年度新入生からの新カリキュラムにおいて、各科目での形成的評価に加え、総括的評価として統一試験を導入する。試験問題は統一試験検討 WG において精査し、医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）への準拠および過度な専門性の排除を確認することで、評価すべき能力を適切に反映した内容となるよう担保する予定である。加えて、正答率が著しく低い問題については評価から除外するなど、試験問題の信頼性の向上に努める。OSCE においては、事前に評価者間で評価基準の共有を行

い、評価者間でのばらつき低減を図っている。

Mini-CEX については一部の診療科で実施予定であり、今後は全診療科への拡大に向けた取り組みを進めていく。360 度評価についても、教員に加え、同一チームで診療に関わる研修医、医療スタッフおよび担当患者等、医師以外の評価者の参画を促進するため、FD を通じた普及を図っていく。

また、学外での臨床実習施設においては、学外指導医による評価を実施しており、その結果を学内で確認・活用している。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 302 弘前大学医学部医学科クリニカルクラークシップ評価表（指導医）
- ・ 資料 308 臨床実習 I 評価票（内科、外科、産婦人科、小児科）

3.2 評価と学修との関連

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 卒業時コンピテンシーと教育方法に整合した評価を実践すべきである。
- ・ 学生の学修を促進する評価を確実に実施すべきである。
- ・ 形成的評価と総括的評価との適切な比率を検討し、学生の学修と教育進度を評価すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）に準拠した本学の卒業時コンピテンシーおよび各学年のアウトカムを整備し、それぞれの能力に対応した評価方法を設定している。例えば、医学知識は筆記試験、臨床技能は OSCE、臨床実践能力・態度・プロフェッショナルリズムは臨床実習における指導医からの行動評価等により評価している。さらに、各科目のシラバスには、対応するコンピテンシーおよび評価方法を明示している。

学生の学修を促進するための評価として、全学生を対象としたポートフォリオを導入予定であり、各科目・実習における評価結果（試験成績、OSCE 評価、臨床実習評価等）を蓄積する。さらに、これらの記録を基に指導医（アドバイザー）との振り返りを行い、形成的評価として活用する体制を整備する。加えて、臨床実習においても定期的に振り返りの機会を設け、学修目標の達成状況や臨床経験を共有することにより、技能および態度領域の学修の促進を図る。

学生の学修および教育進度を適切に評価するため、形成的評価と総括的評価の比率について検討を進める。今後、科目特性に応じて比率を設定し、小テスト、レポート、実習中の観察評価（Mini-CEX 等）、ポートフォリオ等の形成的評価を体系的に導入する予定である。これにより、学修過程における理解度や課題を継続的に把握し、適時フィードバックを行うことで、学修の促進および教育の改善を図る。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 107 弘前大学医学部医学科卒業時コンピテンシー【令和 6（2024）年度以降入学者】【履修案内】
- ・ 資料 130 弘前大学医学部医学科各学年のアウトカム【履修案内】
- ・ 資料 104 弘前大学医学部医学科の使命【履修案内】
- ・ 資料 302 弘前大学医学部医学科クリニカルクラークシップ評価表（指導医用）

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 基本的知識の修得と統合的学修を促進するために、試験の回数と方法（特性）を適切に定めることが望まれる。
- ・ 学生に対して評価結果に基づいた時機を得た、具体的、建設的、公正なフィードバックを行い、学生の学修をさらに進めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

知識の評価は期末試験を中心とした総括的評価のみとしている科目が多く、形成的評価の実施は限定的である。このため、学生の学修過程を適切に把握し、学修の促進を図ることを目的として、小テスト、レポート、実習中の観察評価（Mini-CEX 等）、ポートフォリオ等の形成的評価を段階的に導入する。

知識に関しては、定期試験、CBT、総合試験および国家試験トライアルの成績に基づき、成績不良者に対しては適時面談を行い、学修支援を実施している。技能については、臨床実習における Mini-CEX や 360 度評価の導入ならびに拡充により、その都度指導医からのフィードバックを行い、学修の改善につなげていく。加えて、マネキンシミュレータを用いたシミュレーション教育を拡大し、技能評価を実施する。さらに、全学生を対象としたポートフォリオを導入予定であり、各科目・実習終了後に学生による振り返り（リフレクション）を必須とし、加えて半年から 1 年に 1 回、担当教員（アドバイザー）による面談を実施し、学修状況やリフレクションに基づくフィードバックを行う体制を整備する。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 301 弘前大学医学部（医学科）専門教育科目試験申合せ
- ・ 資料 309 【基礎大で配付】CBT の結果配付について
- ・ 資料 310 【重要】臨床実習前 OSCE 個人成績表の配付について
- ・ 資料 307 【学務グループ】「総合試験（卒業試験）の結果」及び「医師国家試験 CBT トライアル試験の結果」について
- ・ 資料 302 弘前大学医学部医学科クリニカルクラークシップ評価表（指導医用）
- ・ 資料 303 弘前大学医学部医学科クリニカルクラークシップ評価表（学生用）

4. 学生

領域 4.1、4.3、4.4 における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、本学の地域医療への貢献などの使命や、20 年後の医師に必要となる情報科学技術能力などの基盤となる能力を持つ学生を選抜する入学試験実施に向けて体制を構築した。今後は、入学した学生のカウンセリングおよび卒業生のフォローアップ体制の整備などが課題である。

4.1 入学方針と入学選抜

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 全国最大規模となる学士編入学生の受け入れを行っている。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

アドミッション・ポリシーには、「医学部医学科が求める学生像」に加えて、「入学志願者に求める学習の取組」および「入学者選抜の基本方針」をホームページ等に明記している。地域枠を含めた入学者選抜方法については、ホームページ等で公表するとともに、重点評価項目および評価要素についても記載している。

また、学士編入学生の受け入れを継続し、多様な人材の確保を目指している。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 401 弘前大学医学部医学科入学案内（アドミッション・ポリシー）【HP】
- ・ 資料 402 令和 8（2026）年度入学者選抜要項（P66、67）

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 2021（令和 3）年度の新たな大学入試制度に対応して、アドミッション・ポリシーを見直した。

改善のための示唆

- ・ 選抜と、医学部の使命、教育プログラムならびに卒業時に期待される能力をより詳細に関連づけることが望まれる。
- ・ 入学決定に対する疑義申し立て制度について規程を整備することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

「三つの方針」をホームページに明記し、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシーおよびディプロマ・ポリシーを十分に理解し、学力、行動力、意欲を有する学生を求めていることを記載している。

学生募集要項に、キャリア形成卒前支援プランについて明示し、本学の地域医療貢献の使命との関連を明記している。

また、入学決定に対する疑義申し立て制度の検討を行っており、次年度より制度の実施を計画している。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 403 弘前大学医学部医学科三つの方針【HP】
- ・ 資料 404 令和 8（2026）年度学生募集要項〔一般選抜〕（P10）
- ・ 資料 405 令和 8（2026）年度学生募集要項〔総合型選抜〕（P38）
- ・ 資料 406 入学試験委員会議事要旨

4.2 学生の受け入れ

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

入学者選抜において、全国最大規模の地域枠を設定し、青森県内を中心とした地域医療に貢献することを目指している。青森県と連携し、キャリア形成プログラム・キャリア形成卒前支援プランを設定し、学生生活の方向性を早期に示すことで、入学後は地域医療の魅力、やりがい醸成できる教育プログラムと関連づけている。弘前大学医学部連携教育施設を確保して、地域密着型の診療参加型診療実習等を実践している。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 404 令和 8（2026）年度学生募集要項〔一般選抜〕（P6）
- ・ 資料 405 令和 8（2026）年度学生募集要項〔総合型選抜〕（P6）
- ・ 資料 407 青森県キャリア形成プログラム 青森県キャリア形成卒前支援プラン
- ・ 資料 408 クリニカルクラークシップⅠ日程表
- ・ 資料 409 クリニカルクラークシップⅡⅠ～Ⅶ クール実習生配置表

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 地域や社会からの健康に対する要請に合うように、多くの地域枠学生を受け入れていることは評価できる。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

青森県と連携したキャリア形成卒前支援プランでは、地域枠学生が入学後に受けられる卒前支援プロジェクト（教育プログラム）を設定している。また医師養成が地域・社会からの要請に応えられるように、青森県と連携してキャリア形成プログラムが設定されている。また、地域医療の維持確保に向けた三者協定（弘前大学、青森県立中央病院、青森県）を締結している。

青森県と連携して、青森県知事との懇談会を 2 回（新入生対象、および 5 年次臨床実習生対象）開催し、地域医療と県民の健康福祉に関する重要性を学ぶ機会を設けている。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 404 令和 8（2026）年度学生募集要項〔一般選抜〕（P10）
- ・ 資料 405 令和 8（2026）年度学生募集要項〔総合型選抜〕（P38）
- ・ 資料 407 青森県キャリア形成プログラム 青森県キャリア形成卒前支援プラン
- ・ 資料 410 青森県地域医療維持確保に向けた医師派遣に関する三者協定書
- ・ 資料 411 青森県知事と新入生との懇談会（医学部ウォーカー第 113 号抜粋）
- ・ 資料 412 医学部 5 年生と青森県知事との懇談会（医学部ウォーカー第 116 号抜粋）

4.3 学生のカウンセリングと支援

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 社会的、経済的、および個人的事情に対応して学生を支援する多様なプログラムを提供していることは評価できる。

改善のための助言

- ・ 学生を対象とした学修上の問題に対するカウンセリング制度をさらに充実すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学修上の課題を有する学生に対して、学務委員会委員を中心に個別面談およびカウンセリングを実施している。また、全学の保健管理センター等とも連携し、学生が相談しやすい窓口を複数確保することで、学修面のみならず心理的・生活面を含めた支援体制の維持に努めている。今後は、医学教育センター学生生活支援部門の活動をさらに強化し、学修上の問題に対するカウンセリング制度をより体系的に運用できる体制を整備する。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 413 2025 年度留級者面談日程
- ・ 資料 414 医学科の学生相談について
- ・ 資料 415 弘前大学医学部医学科学生面談シートを活用した学生面談に関する取扱い

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学修支援の一環として、学生が将来の進路やキャリア形成を見据えて学修計画を立てられるよう、キャリアガイダンスおよびキャリアプランニングに関する支援を実施している。具体的には、青森県キャリア形成プログラムに関する説明会等を実施し、地域医療への理解、卒後の研修・勤務に関する見通し、ならびにキャリア形成に必要な情報を学生へ提供している。今後も、関係部署と連携しながら、学生が自身の将来像を具体的に描き、計画的に学修を進められるよう支援体制を継続・充実させる。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 416 令和 7 年度 青森県キャリア形成プログラムに係る学生への説明会等スケジュール
- ・ 資料 417 弘前大学医師修学資金支援制度キャリア形成プログラム

4.4 学生の参加

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 使命の策定、教育プログラムの策定および管理、学生に関する諸事項等について、学生の代表が各委員会に参加し、適切に議論に加わることを規定し、履行すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

カリキュラム委員会、学務委員会、プログラム評価委員会を定期的に開催し、各学年の代表学生が適切に議論に加わることで、学生からの要望を取り入れながら教育プログラムの策定・実践・評価を行っている。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 111 弘前大学医学部医学科カリキュラム委員会に関する申合せ
- ・ 資料 112 弘前大学医学部医学科カリキュラム委員会委員名簿
- ・ 資料 113 弘前大学医学部医学科学務委員会申合せ
- ・ 資料 114 弘前大学医学部医学科学務委員会委員名簿
- ・ 資料 115 弘前大学医学部医学科プログラム評価委員会に関する申合せ

- ・ 資料 116 弘前大学医学部医学科プログラム評価委員会委員名簿
- ・ 資料 117 令和 7 年度 学務委員会・プログラム評価委員会・カリキュラム委員会及び各実務者会議開催実績

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学部学友会、医学部学生自治会、弘前医ゼミに参加する会（HIZSK）などの学生の活動を推奨している。学生主体で行われている「弘前大学の IFMSA（国際医学生連盟）交換留学制度の立ち上げ」を支援している。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 418 弘前大学医学部医学科学友会規約
- ・ 資料 419 弘前大学の IFMSA 留学立ち上げに向けた企画書

5. 教員

領域 5.2 基本的水準における「改善のための助言」を受け、FD 活動の活性化を図り、共用試験公的化、医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）への対応などの具体的テーマを取り扱った FD を開催した。今後は、講演会以外の形態での FD 開催が課題である。

5.1 募集と選抜方針

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 全学の教員ポイント制の枠の中で教育ニーズやバランスを考慮しつつ、教員の募集と選抜方針を策定して履行している。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

「弘前大学大学院医学研究科及び医学部教員選考実施要項」が策定されており、全学の教員ポイント制の枠の中で教育ニーズやバランスを考慮しつつ、教員の募集と選抜が履行されている。

弘前大学大学院医学研究科教育・研究組織提言委員会において、基礎系・臨床系講座のあり

方を検討し、その結果を研究科教授会に提言している。

教員業績評価は、5 分野（教育、研究、社会貢献、診療、管理運営）のバランスと、各分野での評価基準に基づいて実施されている。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 501 弘前大学大学院医学研究科及び医学部教員選考実施要項
- ・ 資料 502 弘前大学大学院医学研究科教育・研究組織提言委員会に関する申合せ
- ・ 資料 503 令和 7 年度業績に係る教員業績評価について
- ・ 資料 504 評価項目及び評価基準【詳細版】（2025. 9. 17 改訂）

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 地域医療や被ばく医療といった地域に固有の重大な問題を踏まえた教員の選抜が、使命との関連性を考慮して行われていることは評価できる。
- ・ 全学的な教員ポイント制の制約の中、学内講師、研究教授等の職位や寄附講座の設置等により、経済的事項を考慮した教員人事が行われている。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

適正な教員配置を考慮しながら教員公募を行っており、診療教授等、教育教授等および研究教授等の職位や寄附講座の設置等により、経済的負担を考慮した教員人事を行っている。

2025 年度に開所されたグローバル Well-being 総合研究所では、医学科および教養教育の授業を担当する教員（専任・兼任）が配置され、人の体と心・健康・Social Well-being に関する授業が展開されている。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 505 弘前大学医学部附属病院診療教授等の称号付与に関する内規
- ・ 資料 122 弘前大学医学部医学科教育教授等の称号付与に関する要項
- ・ 資料 506 弘前大学大学院医学研究科研究教授等の称号付与に関する要項
- ・ 資料 507 大学院医学研究科常勤職員現員表
- ・ 資料 508 弘前大学 J-PEAKS 実施体制（Well-being 総合研究所）【HP】
- ・ 資料 509 グローバル Well-being 総合研究所学内兼任教員名簿

5.2 教員の活動と能力開発

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 学内で教員経験があり、FD を受けた者が、臨床教授等として学外臨床実習施設での指導

を担当する体制が構築されている。

改善のための助言

- ・ 講演会だけでなく、ワークショップ等を含めた多様かつ実効性のある FD を実施し、教育に関する能力開発を促す機会を充実させるべきである。
- ・ 個々の教員がカリキュラム全体を十分に理解すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教員の能力および資質向上を目的に FD を定期的開催している。学生教育に関する FD は 3 回開催され、うち 1 回は相互対話形式でのディスカッションを行った。さらに、秋田大学・弘前大学合同 FD として、両大学の教育実践を共有し、意見を交換した。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 145 2025 年度医学教育センター主催 FD ポスター

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 学生数の増加や臨床実習期間の延長に伴う教育ニーズの増加を考慮し、学外臨床実習施設における指導者の確保が行われている。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学外臨床実習施設における指導者等に対して「医学部連携教育施設における FD」を 2 回開催した。

「弘前大学大学院医学研究科及び医学部教員選考に係る規定等の整備」により助教・講師・准教授の採用および昇任に関する判断基準の明文化を行った。また、弘前大学医学研究科・医学部附属病院教員任期制実施要項を見直し、改正を行った。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 131 令和 7 年度弘前大学医学部連携教育施設における FD の開催について
- ・ 資料 132 令和 7 年度弘前大学医学部連携教育施設における FD チラシ
- ・ 資料 240 令和 7 年度弘前大学連携教育施設における FD 配布資料（弘前大学における医学教育の現状について）
- ・ 資料 241 令和 7 年度弘前大学連携教育施設における FD 配布資料（診療参加型臨床実習の現状について）
- ・ 資料 510 弘前大学大学院医学研究科及び医学部教員選考に係る規定等の整備について
- ・ 資料 501 弘前大学大学院医学研究科及び医学部教員選考実施要項
- ・ 資料 511 弘前大学大学院医学研究科及び医学部教員選考実施要項新旧対照表

- ・ 資料 512 弘前大学大学院医学研究科基礎医学系教員の資格基準に関する申合せ
- ・ 資料 513 弘前大学大学院医学研究科臨床医学系及び医学部附属病院教員の資格基準に関する申合せ
- ・ 資料 514 弘前大学大学院医学研究科・医学部附属病院教員任期制実施要項

6. 教育資源

領域 6.2、6.3、6.5、6.6 における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、学外臨床実習施設での学外 FD を積極的に実施するとともに、文部科学省支援事業等により、ICT に関連する設備を整備した。今後は、FD のオンデマンド化を進め、教員の指導負担軽減と指導能力の向上の両立を図ることが課題である。

6.1 施設・設備

医学教育分野別評価基準日本版の改訂があり、Ver. 2.36 の内容は以下のとおりである。

注釈

- ・ [安全な学修環境]には、有害な物質、試料、微生物についての必要な情報提供と安全管理、研究室の安全規則と安全設備が含まれる。

日本版注釈：[安全な学修環境]には、防災訓練の実施などが推奨される。

日本版注釈：[安全な学修環境]には、解剖用献体の適切な保管が含まれ、解剖体に関する記録ならびに保管は関係する法律や省令に定められている（医学及び歯学の教育のための献体に関する法律、医学及び歯学の教育のための献体に関する法律に基づく正常解剖の解剖体の記録に関する省令）。

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

臨床実習Ⅰでは、内科・外科・産婦人科・小児科において、学外臨床実習施設での診療参加型臨床実習（5 年次全員）を行える体制を充実させた。

学外施設との双方向性が担保されている画像診断遠隔カンファレンスシステムを用いて、臨床実習Ⅰ（5 年次全員）・臨床実習Ⅱ（6 年次選択）における診療参加型臨床実習が行われた。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 408 クリニカルクラークシップⅠ日程表
- ・ 資料 601 令和 7 年度「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」教育カリキュラムの実施状況（P2、10）

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

シミュレーター実習室において、臨床実習生（臨床実習Ⅰ・5年次全員・22グループ半日ずつ）を対象にシミュレーション実習を実践した。また、臨床実習生（5・6年次）を対象に学生が自由にシミュレーター実習室を使用できるような体制を構築し、多数の利用実績があった。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 205 臨床実習Ⅰ（5年次）におけるシミュレーター実習
- ・ 資料 602 2025 年度シミュレーター実習室利用状況報告（クリニカルクラークシップⅡ）

6.2 臨床実習の資源

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 学外臨床実習施設やその指導者を確保することにより、地域医療およびへき地医療に関する幅広い臨床実習を可能としていることは評価できる。

改善のための助言

- ・ 各臨床実習施設における患者数と疾患分類について調査し、学生が適切な臨床経験を積めるような体制を確保すべきである。
- ・ 医学部附属病院だけでなく、学外実習施設の指導医についてもFD等をとおして指導能力を高め、臨床実習の質を担保すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

診療参加型臨床実習をより充実させるため、学外の臨床研修病院を対象としたFDを開催し、診療参加型臨床実習等に関して情報共有するとともに、実習の質的改善を図った。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 240 令和7年度弘前大学連携教育施設におけるFD配布資料（弘前大学における医学教育の現状について）
- ・ 資料 241 令和7年度弘前大学連携教育施設におけるFD配布資料（診療参加型臨床実習の現状について）
- ・ 資料 132 令和7年度弘前大学医学部連携教育施設におけるFDチラシ

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学教育の質改善のため他大学の講師も交えた医学教育センター主催 FD を開催した。

米国における医学教育を学ぶとともにその実際を体験するため、海外講師を招いた FD を開催した。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 145 2025 年度医学教育センター主催 FD ポスター
- ・ 資料 243 ハワイ大学・町淳二先生によるカンファレンス・講演会を開催【HP】

6.3 情報通信技術

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 情報通信技術の利用状況や、それを利用した学修状況を把握すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学分野での情報通信技術に関する基本的な事項に関して、医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）に新規に加えられた資質・能力である「科学技術を活かす能力」に対応して、昨年度再構築した 1 年次の医用システム工学概論を今年度も実施した。

弘前大学・秋田大学・弘前学院大学・弘前医療福祉大学が連携し、文部科学省大学教育再生戦略推進費「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」「多職種連携と DX 技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ」事業が行われており、2025 年 12 月 19 日にシンポジウムが開催され、DX 推進と学生の学修状況を確認した。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 603 医用システム工学概論シラバス
- ・ 資料 604 第 4 回「多職種連携と DX 技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ」事業シンポジウムポスター

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 自己学習のための新たなオンライン学修支援システムを構築している。

改善のための示唆

- ・ 保健医療提供システムにおける業務に関する情報通信技術の活用をさらに進めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2022 年度補正予算文部科学省「医学部等教育・働き方改革支援事業」により 2023 年度に OSCE 実施支援システムを導入した。また、OSCE 運営の際の評価を円滑に実施するために、動画撮影と連携した評価票の記入が可能かつ一元的にクラウド保管・管理可能な情報通信システムを構築している。

また、画像診断遠隔カンファレンスシステムを導入し、本学医学部附属病院と青森県、秋田県および北海道内の臨床実習施設等をつなぎ、放射線画像についての双方向的な議論が可能となる環境を構築している。

引き続き、本学が主導する大規模住民合同健診である岩木健康増進プロジェクトにおいて、弘前市等の行政組織とデジタルプラットフォームを通じて連携し、研究を実施する。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 605 令和 4 年度大学改革推進補助金（医学部等教育・働き方改革支援事業）交付申請書
- ・ 資料 606 OSCE 実施支援システム機能仕様書
- ・ 資料 607 画像診断遠隔カンファレンスシステム導入に関して

6.4 医学研究と学識

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 医学研究と教育が関連するように育む方針に基づき、4 か月にわたる「研究室研修」が実施されている。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

研究室研修を継続し、4 か月にわたる研究活動を通じて、医学生が医学研究の基本的な考え方、研究計画の立案、データの解釈、成果発表の方法を学ぶ機会を確保した。医学研究と教育の連携を重視し、各研究室における指導体制のもと、学生が主体的に研究課題へ取り組めるよう支援した。今後も研究室研修を継続し、医学生の医学研究に関する素養を育むとともに、研究成果を発表する機会を通じて学術的態度の涵養を図る。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 210 特別教育科目（研究室研修）シラバス
- ・ 資料 608 2025 年度 研究室研修／医学英語Ⅲ 発表会スケジュール

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

研究室研修を通じて、学生が各研究室で医学研究に参加し、研究課題の理解、文献検索、研究手法、結果の解釈、成果発表を経験する機会を継続的に提供している。さらに、研究室研修／医学英語Ⅲ発表会により、研究成果を発表し、質疑応答を行う機会を確保している。今後も本研修を継続し、医学生が医学研究の意義を理解し、学術的視点を臨床医学に結びつける素養を育成する。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 210 特別教育科目（研究室研修）シラバス
- ・ 資料 608 2025 年度 研究室研修／医学英語Ⅲ 発表会スケジュール

6.5 教育専門家

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ カリキュラム開発や教育技法および評価方法の開発について、教育専門家の利用についての方針を策定し、履行すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学教育学講座には、特任教授 1 名・准教授 1 名に加えて、2024 年度より高度医療人材養成拠点形成事業の准教授 1 名が配置されたことにより、計 3 名の専任教員が医学教育領域の中心的運営を担っている。

カリキュラム開発・継続的改善を行う医学教育改善 WG、教育カリキュラム検討 WG、臨床カル・クラークシップ WG のメンバーには、医学教育学講座の専任教員が加わっている。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 609 医学研究科契約職員等現員表
- ・ 資料 507 大学院医学研究科常勤職員現員表
- ・ 資料 610 医学教育改善 WG 委員名簿
- ・ 資料 118 弘前大学医学部医学科教育カリキュラム検討 WG 委員名簿
- ・ 資料 120 弘前大学医学部医学科臨床・クラークシップ WG 委員名簿

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

地域医療に関する学部教育を展開する地域基盤型医療人材育成センターには、教育カリキュラム専門部会および事業評価専門部会が設置されており、学外（他大学）の教育専門家が委員として加わっている。

昭和医科大学へのサイトビジット、ならびに高知大学からのサイトビジット受入により、各大学の教育専門家と意見交換を行っている。また、第 57 回日本医学教育学会大会 in AKITA では、特別企画「ポストコロナ時代の地域医療教育：持続可能な医療人材の養成から共創へ」にて発表を行い、地域医療教育の専門家と意見交換を行った。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 140 弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議の専門部会設置に関する申合せ
- ・ 資料 141 弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議教育カリキュラム専門部会委員名簿
- ・ 資料 143 弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議事業評価専門部会委員名簿
- ・ 資料 611 ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業（令和 7 年 4 月 25 日（金）～26 日（土））高知大学からの来校（弘前大学へのサイトビジット）スケジュール
- ・ 資料 204 昭和医科大学サイトビジット 2025.6.25（水）
- ・ 資料 612 第 57 回日本医学教育学会学術大会予稿集（JSME57 特別企画 1）

6.6 教育の交流

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 国際交流研究委員会を設置し、国外教育機関・医療機関への教職員ならびに学生の派遣、

受け入れを進めている。

改善のための助言

- ・ 国外機関だけでなく、学内他学部を含め国内の教育機関との交流を推進すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

国外教育機関・医療機関への派遣事業としては、教職員ならびに学生の台湾の長庚記念病院や馬偕記念醫院での交換留学による研修、ハワイ大学夏期研修、三沢米軍病院夏期研修を通して教育の交流を推進している。2025 年からは、本学と MOU 締結下のイタリアのカターニャ大学と専攻医および教職員間の相互留学を進めており、第 3 期までの留学が継続されている。

また、2022 年度に、秋田大学を連携校、弘前市内の医療系私立大学を協力校として採択された文部科学省大学教育再生戦略推進費「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」により、学内他学部を含め国内の教育機関との連携を強化した。

2025 年度には、本学医学科学生、保健学科学生、弘前学院大学および弘前医療福祉大学の学生が参加する多職種連携ワークショップを開催した。また、本学医学科 1 年次、看護学専攻の学生が合同で実地学修する附属病院内早期体験実習を実施した。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 613 学生だより（医学部ウォーカー第 115 号抜粋）
- ・ 資料 614 弘前大学医学部合同演習【医療系多職種連携に関する授業】
- ・ 資料 224 臨床医学入門シラバス
- ・ 資料 615 令和 7 年度臨床医学入門 ー早期体験実習（E.E.）要項ー学外病院・クリニック [1 年次]
- ・ 資料 616 2025 年度臨床医学入門 ー早期体験実習（E.E. : Early Exposure）基礎看護学実習 I 実習要項（共通部分）

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学生の国内外（国際）交流事業の一環として、2025 年度はハワイ大学夏期研修、米軍三沢病院夏期研修、台湾の馬偕記念醫院や長庚記念病院での臨床実習が行われた。

国内の交流事業としては、2024 年度の文部科学省「高度医療人材養成拠点形成事業」に秋田大学の連携校として採択され、臨床医・研究医の養成ならびに研究力向上に取り組んでいる。

2025 年 4 月には、本学医学部医学科医学教育センター内に「臨床研究医養成室」が新設され、医学科学生をメディカルスチューデント・アシスタント（MSA）として雇用する制度を開

始した。MSA は希望の講座に配属され、在学中から研究手法を学ぶほか、秋田大学との研究交流会や学会発表の論文公表を通じてリサーチマインドを高め基礎と臨床の双方に精通した臨床研究医の育成が期待されている。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 613 学生だより（医学部ウォーカー第 115 号抜粋）
- ・ 資料 134 国立大学法人弘前大学におけるメディカルチューデント・アシスタントの雇用に関する要項
- ・ 資料 135 令和 7 年度 MSA 活動中間発表会チラシ
- ・ 資料 136 令和 7 年度リサーチドクター養成キャンプ開催要領

7. 教育プログラム評価

領域 7.1～7.4 における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、IR 部門の活動を実質化し、またプログラム評価委員会を定期開催し、カリキュラムのさらなる改善に向けてのプログラム評価体制を構築するとともに、今後は、各学年のアウトカムの達成度を定期的に評価するシステムの構築が課題といえる。

7.1 教育プログラムのモニタと評価

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 学生の入学試験の成績や入学後の各試験の成績、GPA 等に関するデータの収集、管理を行っている。

改善のための助言

- ・ IR 部門とプログラム評価委員会の活動を実質化し、カリキュラムと学修成果を定期的にモニタする仕組みを設け、評価の結果をカリキュラムに反映すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

プログラム評価委員会を定期開催し、学修成果に応じた教育プログラムの再評価を継続的に実施している。

医師国家試験の成績と学生の背景について検討し、留年した学生と医師国家試験不合格者との相関があること、1 年次 GPA が 2.5 を下回った学生は、留級率が上昇傾向になることが明らかになった。留年者の減少を目的とした、入学後の生活背景や勉学状況などを低学年から支援する体制を計画している。

医学科シラバスについて、医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度版）のほぼすべての項目が網羅されていることを確認している。プログラム評価委員会を定期開催し、学修成果に応じた教育プログラムの再評価を継続的に実施している。今後もプログラムの評価を継続するとともに、各学年のアウトカムの達成度を定期的に評価し、留級率や医師国家試験の結果との関連について、IR 活動として検討を行う。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 110 医学教育センター組織図
- ・ 資料 115 弘前大学医学部医学科プログラム評価委員会に関する申合せ
- ・ 資料 116 弘前大学医学部医学科プログラム評価委員会委員名簿
- ・ 資料 117 令和 7 年度 学務委員会・プログラム評価委員会・カリキュラム委員会及び各実務者会議開催実績
- ・ 資料 415 弘前大学医学部医学科学生面談シートを活用した学生面談に関する取扱い
- ・ 資料 118 弘前大学医学部医学科教育カリキュラム検討 WG 委員名簿
- ・ 資料 119 教育カリキュラム検討 WG 議事要旨
- ・ 資料 128 （1～4 年・講義）コアカリ選択表 医学教育モデル・コア・カリキュラム（R4 年度改訂版）
- ・ 資料 129 （5～6 年・臨床実習）コアカリ選択表 医学教育モデル・コア・カリキュラム（R4 年度改訂版）
- ・ 資料 137 カリキュラム委員会議事要旨
- ・ 資料 139 プログラム評価委員会議事要旨

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 地域医療や被ばく医療も含めた学修成果、長期間で獲得される学修成果についてデータを取集し、教育プログラムを包括的に評価することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

地域医療や被ばく医療など特色あるカリキュラムを組んでいる。これらを含めた学修成果（長期的アウトカムを含む）について、医学教育学講座に所属する教員が IR 部門との連携を強化し、データを継続的に収集し、包括的にプログラム評価を実施する体制を構築する。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 110 医学教育センター組織図
- ・ 資料 218 環境と生活－弘前大学災害対応マネージャーその 1 防災科学－（副専攻「放射線総合科学」科目）シラバス
- ・ 資料 219 医学・医療の世界－弘前大学災害対応マネージャーその 2 災害医学－（副専攻「放射線総合科学」科目）シラバス
- ・ 資料 220 持続可能な開発目標 SDG s－弘前大学災害対応マネージャーその 3 原子力災の理解－（副専攻「放射線総合科学」科目）シラバス
- ・ 資料 221 弘前大学医学部医学科救命・被ばく医療対応コース受講証交付に関する要項

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 学務委員会のメンバーが 6 年次学生全員と面談を行い、学生自治会との懇談会も実施して学生の意見や要望を直接聴取している。

改善のための助言

- ・ 教育プログラムに関する分析・対応を可能にするため、教員と学生からのフィードバックを系統的に求めるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学生からの教育評価アンケートについて、オンラインで行い効率化した。回収率の向上に向けて、講義中 5-10 分程度のアンケート記入時間を確保した。また、アンケート結果は当該教職員にフィードバックし、さらなる教育活動の改善に努めた。今後は、アンケート結果についてプログラム評価委員会等にて分析を実施し、カリキュラム委員会にて授業の改善を図る体制を構築する。また、学生からだけではなく教員からも教育プログラムに対するアンケートを実施し、フィードバックできる体制を構築していく。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 701 令和 7 年度前期「教育評価アンケート」実施について（依頼）
- ・ 資料 702 教育評価アンケート実施マニュアル（2025. 6. 16 版）
- ・ 資料 703 令和 7 年度前期・専門教育科目における「教育評価アンケート」実施について
- ・ 資料 704 6 年次を対象としたクリニカルクラークシップについてのアンケート結果
- ・ 資料 705 2025 年度 卒業生に対するアンケート調査 実施概要
- ・ 資料 706 2025 年度 医学科卒業生アンケート調査

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 2 年次における教育の過密を避けるために学生から意見を聞いている。

改善のための示唆

- ・ 系統的なフィードバックの結果を利用して教育プログラムを開発することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

カリキュラム委員会・学務委員会・プログラム評価委員会に参加した学生委員からのヒアリングにより、学生の視点からのフィードバックがリアルタイムに聴取される体制が構築されている。学生の体系的な学修、2～4 年次の定期試験の過密などを避けながらのカリキュラムの水平的統合・垂直的統合を推進している。

卒業生の意見をもとに、5・6 年次学生の臨床実習の開始時期を前倒しし、結果的に臨床実

習終了時期を早めることができ、医師国家試験対策に向けた学修の確保につながっている。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 119 教育カリキュラム検討 WG 議事要旨
- ・ 資料 137 カリキュラム委員会議事要旨
- ・ 資料 138 学務委員会議事要旨
- ・ 資料 139 プログラム評価委員会議事要旨
- ・ 資料 704 6 年次を対象としたクリニカルクラークシップについてのアンケート結果
- ・ 資料 707 2025 年度クリニカルクラークシップ I・II スケジュール
- ・ 資料 705 2025 年度 卒業生に対するアンケート調査 実施概要
- ・ 資料 706 2025 年度 医学科卒業生アンケート調査
- ・ 資料 201 医学部医学科カリキュラムたたき台【令和 8（2026）年度 1～4 年生】
- ・ 資料 708 令和 7 年度 医学部医学科 期末試験時間割表 [3・4 年次]

7.3 学生と卒業生の実績

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ カリキュラムの変更や PBL の導入等により、意図した学修成果が達成されているか学生と卒業生について調査し、分析すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

卒業生をフォローアップするシステムを構築しており、本学の教育カリキュラムについて毎年アンケート調査を実施している。

各学生の学修成果については、授業科目ごとにデータが蓄積され、さらには毎学年 GPA が算出されている。カリキュラムの変更や GPA が学生や卒業生の学修成果（特に医師国家試験やマッチングの結果）に与えた影響について調査する体制構築を検討する。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 709 医学部医学科 2025 年度 GPA データ
- ・ 資料 705 2025 年度 卒業生に対するアンケート調査 実施概要
- ・ 資料 706 2025 年度 医学科卒業生アンケート調査

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 地域枠や学士編入学等の入試種別や学生の背景に応じた、学修成果の達成状況を学生と卒業生について分析し、責任ある委員会に時宜を得たフィードバックを行い、教育改善につなげることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

IR 部門により、学生の背景に応じた成績評価を実施した。医師国家試験の成績と学生の背景の関連およびその対策について、学務委員会等で検討した結果をもとに、サポートを要する学生を早期に識別し、適切な支援を行う体制を構築した。

今後は、卒業生についても、マッチングの結果や、初期研修の評価、後期研修の評価などについて、学生時の背景に応じた成績評価との関連について検討し、教育改善につなげる体制を構築する。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 415 弘前大学医学部医学科学生面談シートを活用した学生面談に関する取扱い
- ・ 資料 709 医学部医学科 2025 年度 GPA データ

7.4 教育の関係者の関与

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ プログラム評価委員会に各学年の学生代表が含まれている。

改善のための助言

- ・ プログラム評価委員会に教育に関わる主要な構成者を含め、教育プログラムのモニタと評価を確実に行うべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

プログラムに対する学生の意見を広く取り入れられるように、各学年の代表をプログラム評価委員会の委員に入れている。

プログラム評価委員会内で、教育プログラムのモニタおよび評価を、確実にかつ明確に行うための基準や体制を構築していく。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 115 弘前大学医学部医学科プログラム評価委員会に関する申合せ
- ・ 資料 116 弘前大学医学部医学科プログラム評価委員会委員名簿
- ・ 資料 139 プログラム評価委員会議事要旨
- ・ 資料 117 令和 7 年度 学務委員会・プログラム評価委員会・カリキュラム委員会及び各実務者会議開催実績

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 教育プログラムのモニタと評価を確実にし、その結果を広い範囲の教育の関係者が閲覧できるようにすることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

文部科学省大学教育再生戦略推進費「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」に関連する教育プログラムについて、地域基盤型医療人材育成センター運営会議および教育カリキュラム専門部会を開催した。構成委員として、学外教員を招聘し、プログラムの成果について学内外の幅広い関係者に周知した。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 710 弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議委員名簿
- ・ 資料 246 弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議議事要旨
- ・ 資料 141 弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議教育カリキュラム専門部会委員名簿
- ・ 資料 142 弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議教育カリキュラム専門部会議事要旨

8. 統括および管理運営

領域 8.1、8.2、8.4 における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、医学教育センター内の部門の機能分担を推進した。今後は、各部門の委員会に地域の他大学や学内の他学部との教育関係者が参加できる体制を構築することが課題である。

8.1 統括

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 医学教育に関するほぼすべての業務を医学教育センターに集約しているが、その下部組織である部門の位置付けを明確にすべきである。
- ・ 医学部および全学の IR 部門の機能と役割分担を明確にして、データを集積し有効活用すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学教育センターにおける 8 部門の機能分担をさらに定着させ、各部門がより自律的かつ有機的に連携できる運用体制を確立した。定期的な医学教育センター運営会議を通じ、教育の質保証に向けた継続的な改善サイクル（PDCA）を回している。

医学教育センターIR 部門において、医療情報学の専門家によるデータ分析基盤を拡充するとともに、全学 IR 部門との密接な情報共有体制を構築し、エビデンスに基づいた医学教育プログラムの最適化を推進している。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ なし

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 教学に関する委員会組織に、主な教育関係者やその他の教育関係者の意見を反映することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教学に関する主要な委員会組織(カリキュラム委員会、学務委員会、プログラム評価委員会)における学生参画を継続し、学生代表の意見を具体的な教育改善やカリキュラム編成に反映させるプロセスを定着させた。また、医学教育専門家による助言体制を継続し、専門的知見に基づくプログラムの質的検証を強化している。

弘前大学医学部連携教育施設における FD（Faculty Development）を継続的に実施し、学外の指導医等との双方向的な意見交換を通じて、地域医療の実践に即した教育内容の検討や指導体制の更なる高度化を図っている。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 111 弘前大学医学部医学科カリキュラム委員会に関する申合せ
- ・ 資料 112 弘前大学医学部医学科カリキュラム委員会委員名簿
- ・ 資料 113 弘前大学医学部医学科学務委員会申合せ
- ・ 資料 114 弘前大学医学部医学科学務委員会委員名簿
- ・ 資料 115 弘前大学医学部医学科プログラム評価委員会に関する申合せ
- ・ 資料 116 弘前大学医学部医学科プログラム評価委員会委員名簿
- ・ 資料 132 令和 7 年度弘前大学医学部連携教育施設における FD チラシ

8.2 教学における執行部

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 医学部長、講座の主宰者、医学教育センター長およびその部門長、教学関係の委員会委員長等の教学のリーダーシップの評価を、使命と学修成果に照合して定期的に行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学教育センターをはじめとする教学関連の各リーダーの活動（リーダーシップ等を含む）に関する自己評価制度を導入し、その結果の解析およびフィードバックを行った。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 801 【依頼 医総務】令和 7 年度 教学における執行部の自己評価について
- ・ 資料 802 令和 7 年度 教学における執行部の自己評価（弘前大学医学部医学科）

8.3 教育予算と資源配分

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

公益社団法人青森医学振興会の援助を受け、医学教育環境の改善に努めている。教育資材の充実、また医師国家試験対策を充実させ、国家試験合格率が向上した。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 803 令和 7 年度事業計画等について（通知）
- ・ 資料 804 医師国家試験の合格状況調

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 地域医療に関連する 6 つの寄附講座を開講して、地域医療の向上に努めていることは評価できる。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

地域医療に関連する 6 つの寄附講座を核として、地域医療の向上に向けた取り組みをさらに深化させている。各寄附講座と医学教育センターが緊密に連携し、地域医療実習の提供や、地域課題に即した教育プログラムの継続的な運用を通じて、地域社会に貢献する医療人の育成を推進している。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 507 大学院医学研究科常勤職員現員表

8.4 事務と運営

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 医学研究科事務部は学務グループと総務グループからなり、学事に関する事務全般、入試、国際交流等、多岐にわたる業務を担当している。

改善のための助言

- ・ 円滑な業務を遂行するために事務部門をより一層充実すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学研究科事務部学務グループにおいて、増員された人的資源を基盤に、事務組織としての機能強化を継続している。本年度は学務事務職員に対し、医療者教育学に関連する講習の受講や専門的研修への参加を積極的に促進した。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 805 2026 年度実施に向けた医学生共用試験 OSCE（前・後）全国説明会参加申込フォーム
- ・ 資料 806 令和 7 年度医学生共用試験 CBT 統括実施責任者等講習会参加申込
- ・ 資料 807 2027 年度医学生共用試験 CBT 問題作成に関する説明会参加申込

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 弘前大学における組織評価を毎年行っており、機関別認証も定期的に受審している。
- ・ 事務職員および技術職員の評価を実施している。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学務事務職員が医療教育学（医療者教育学）の専門的知識を持って教学運営に深く関与できる体制を実質化させた。事務職員が教育プログラムの評価や質保証のプロセスに専門的な視点から参画することで、教職協働による医学教育の継続的な改善体制を確立している。

毎年実施している組織評価および事務職員・技術職員の個人評価を継続し、教育支援業務の専門性向上を適切に評価に反映させることで、機関別認証等の外部評価にも対応しうる、透明性の高い質の高い組織運営を維持している。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 112 弘前大学医学部医学科カリキュラム委員会委員名簿
- ・ 資料 137 カリキュラム委員会議事要旨
- ・ 資料 116 弘前大学医学部医学科プログラム評価委員会委員名簿
- ・ 資料 139 プログラム評価委員会議事要旨

8.5 保健医療部門との交流

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 青森県や弘前市をはじめとする自治体の保健医療部門や保健医療関連部門と積極的な交流を図っている。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

自治体の保健医療部門や保健医療関連部門との積極的な交流を持続展開している。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 808 地域総合診療センター設立について
- ・ 資料 809 医学生のための夏休みにできる病院の歩き方のすすめパンフレット

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 「岩木健康増進プロジェクト」、「いきいき健診」等で、スタッフと学生が保健医療関連部門と協働して活動していることは評価できる。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

「岩木健康増進プロジェクト」および「いきいき健診」等の活動を継続している。前者は弘前市民にも対象を広げ、拡大展開している。また参画企業も増え、さらに多面的な調査研究を推進している。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 810 2025 年度 岩木プロジェクト健診 実施報告
- ・ 資料 811 2025 年度 いきいき健診
- ・ 資料 812 岩木健康増進プロジェクト健診の参加者を募集（広報ひろさき）

9. 継続的改良

領域 9 基本的水準における「改善のための助言」を受け、医学教育センターを構成する部門の活動を実質化し、学生委員を含む委員会を定期開催した。カリキュラムの水平的統合・垂直的統合を促進するための検討を開始した。今後は、学修成果の達成度の継続的な評価のための体制を構築することが課題である。

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 教育プログラム、構造、内容、コンピテンシー、プログラム評価ならびに学修環境を定期的に見直し、課題を特定して継続的に教育改善を行うべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育プログラム、カリキュラム構造、教授内容、コンピテンシー、および学修環境の定期的な見直しとプログラム評価を継続的に実施し、特定された課題を具体的な教育改善に直結させる質保証体制を確立した。

現在推進している教育カリキュラムの水平的統合・垂直的統合をさらに加速させ、基礎・臨床・社会医学が有機的に連携した統合型カリキュラムの最適化を図ることで、学修成果の最大化に向けた継続的な教職協働による改善サイクルを運用している。

教育活動等の状況がわかる資料

- ・ 資料 109 医学部医学科教学 PDCA サイクル図

- ・ 資料 232 医学教育センター運営会議議事要旨
- ・ 資料 137 カリキュラム委員会議事要旨
- ・ 資料 138 学務委員会議事要旨
- ・ 資料 139 プログラム評価委員会議事要旨

質的向上のための水準：評価を実施せず

特記すべき良い点（特色）

- ・ 評価を実施せず

改善のための示唆

- ・ 評価を実施せず